

通所介護・通所リハビリテーション「活動」と「参加」を推進する

# 自立支援型ケアリーダーを育成します!

## 自立支援型ケア

制度の期待に応え続け、報酬改正への不安を根本払拭する体制作り

実践者開発  
養成講座

### 本講座の受講メリット

- 制度が目指す「自立支援型ケア」の実践ノウハウを全6回に集約!
- 利用者の「活動」と「参加」を広げるアセスメント、モニタリング技術を指導!
- 「自立支援型ケア」の機能訓練を計画策定から訓練手法、ホームワークプログラムまで指導!
- 3ヶ月で「お世話型ケア」から政府推進の「自立支援型ケア」の実践者へパラダイムシフト!
- 講座修了後、各方面から注目されている「活動」と「参加」のアウトカムスケールを導入可能!  
※別途月額費用必要(事業所あたり数千円程度を予定)

### 制度は自立支援型ケアへの取組必須へ一気に加速!

| 平成29年4月14日 承認後協議会<br>における安部総務大臣発言(抜粋)   | 本邦投資戦略2017(平成29年6月9日閣議決定)(抜粋)  | 経済財政運営と改革の基本方針2017<br>(平成29年6月9日閣議決定)(抜粋)  |
|---|--|--|
| 進化は避けられませんが、日々の努力で介護状態になることを予防できます。いったん介護が必要になっても、本人が望む限りリハビリを行うことで改善できます。(略)そして、効果のある自立支援の取組が報酬上評価される仕組みを確立させます。 | 介護・科学的介護の導入による「自立支援の促進」(抜粋された課題)<br>-介護予防や、要介護状態からの悪化を防止・改善させるための先進的な取組みが一部に広まっているものの、国として目指すべき形として、自立支援等の効果が科学的に裏付けられた介護を具体的に示すには至っておらず、また、要介護度が改善すると報酬が増えることもあり、自立支援に向けたインセンティブの充実度を求める声がある。<br>(主な取組み)<br>-改善介護報酬改定において、効果のある自立支援について評価を行う。 | 自立支援に向けた介護サービス事業者に対するインセンティブ付与のためのアウトカム等に応じた介護報酬のメリハリ付け(中略)について、関係審議会等において具体的内容を検討し、2018年度(平成30年度)介護報酬改定で対応する。 |

このように介護の世界はこれまでの「お世話型」から「自立支援型」へ一気に評価の動きへ進んでいます。そして取り組みだけではなく「成果」も求められ、早ければ30年改正から評価加算も付与されるようになります。

### 基本報酬は削減、自立支援への取組は加算で上乘せ評価!

基本報酬は引き下げられ、一方で自立支援への取組は加算で高い評価を受けます。事業所として制度の期待に応えるためには自立支援に取り組むことは必須。具体的には通所介護では「個別機能訓練加算II」、通所リハビリテーションでは「リハビリテーションマネジメント加算」の算定要件に取り組むことで、減収を食い止め、モデルによっては増収に結びつくことに寄与します。本講座はこれらに効果的な取り組みにつながるノウハウを提供、学習できる場です。

### チームが活性化! スタッフの効力感向上で定着採用UP!

チームが自立支援ケアへの取組で目的に活性化します。自立支援を行うことで成果やプロセスの共有を通じ、各専門職の専門性を活用して行うよう育成するため、専門職としてのアイデンティティの確立に結びつきます。このようなスタッフ同士の相互補完関係により、高い専門性を誇る、やる気になったチームを形成、職員定着率の向上や、魅力ある職場へ有能な職員の採用促進などに貢献します。

# Syllabus

第1回

第2回

## ● 第1回、第2回講座概要

お世話型から脱却し、地域包括ケアが目指す活動と参加の機能訓練実践者にパラダイムシフトを起こすための基礎を学ぶ。あるべきアセスメント、援助技術の基礎からチームを自立支援ケアに向かわせるためのビジョンづくり、課題整理、戦略策定の基礎を学習し、活動と参加のアウトカムを理解し、自施設において自立支援ケアを目的的に導入できるようになる。尚、活動と参加のアウトカムスケール「縦スケール」を用いて実際の利用者へのアプローチを試みるため、ケア全般において目的が何かを明確に理解し、実践できるようになるのも特徴。

## 第1回 活動と参加をビジョンする 制度理解とチームづくり

| コース | 第1回   | 第2回  | 第3回  | 第4回  | 第5回  | 第6回  | 時間             |
|-----|-------|------|------|------|------|------|----------------|
| 日曜  | 12:20 | 2:15 | 4:23 | 5:17 | 7:23 | 8:23 | 10:30<br>18:00 |

| 時刻              | 講座No.      | 講座名  | 講座内容   |
|-----------------|------------|--|--|
| 10:30~<br>14:30 | 1-1<br>1-2 | 活動と参加、チームづくり、リーダーシップ<br>(目的と伝える技術の習得、制度理解) | 30年改正を機に、介護保険におけるビジョンはICFを志向する活動と参加の支援と明確に定められた。通所介護及び通所リハビリにおいては特に、これまでのお世話型、個別訓練依存型からの取組が求められ、多職種連携により心身機能の維持向上に留まらない、活動と参加の機能訓練を行うことが必須となった。本講座では正しい制度理解を基に事業所運営のあるべき姿を理解し、通所ケアにおける活動と参加を支援する自立支援型ケアが具体的に何であるかを学習。受講者の事業所がその目的へと向かい、チームが一丸となって取り組めるようになるためのチーム運営とリーダーシップの在り方について講義する。 |
| 14:45~<br>16:15 | 1-3        | チームを動機づけるための<br>課題共有ワークショップ                | 受講目的と意義、意義を深めるために、出席者の事業所における現在の課題点をあらかじめ整理し、PPTを用いて発表。スーパーバイザーや他の出席者のフィードバックを受けながら課題そのものをブラッシュアップする。本ワークを通じ、自施設の改革に向けて、関係者部下たちへの訴求力を高める。  |
| 16:30~<br>18:00 | 1-4        | 活動と参加の自立支援型事例学習と<br>ディスカッション               | 有意義な計画書の平読みと記録が成果を生み出す自立支援型の実践事例を用いて学習する。アセスメントから計画に結びつけるポイントなどをわかりやすく解説し、翌日から行われる実践教育への思考の整理、意欲の増進を目指す。専用のクラウドシステムを活用しながら気づきなどをその場で共有することの意義なども学習する。  |

## 第2回 通所ケアにおけるアウトカムの理解と アセスメント及び面接技術の基礎

| コース | 第1回   | 第2回  | 第3回  | 第4回  | 第5回  | 第6回  | 時間            |
|-----|-------|------|------|------|------|------|---------------|
| 日曜  | 12:30 | 2:16 | 4:24 | 5:18 | 7:24 | 8:24 | 9:00<br>16:00 |

| 時刻              | 講座No.      | 講座名                              | 講座内容   |
|-----------------|------------|----------------------------------|--|
| 9:00~<br>10:30  | 2-1        | 制度理解(個別機能訓練加算等)<br>目指すべきアウトカムを理解 | 加算で示される通所ケアに求められる自立支援型ケアの在り方、取り組み方法等について、わかりやすく解説する。また、自立支援型ケアを通じて目指すアウトカムを独自のアウトカムスケール(縦スケール)を用いて具体的に学習する。また、アウトカムスケールの活用方法についても学習し、受講者の施設で実践利用する準備を行う。 |
| 10:45~<br>12:15 | 2-2        | 活動と参加につながるアセスメントの理解              | 活動と参加を促進する自立支援型ケアにおいては、その訓練手法ではなく、訓練を創り出す事となる有益なアセスメントが欠かせない。アセスメントと計画、訓練内容の一致は必須であり、それぞれが監査対象だけのためになってはならない。有益なアセスメントとは何であるかを基礎から理解し、演習に結びつける基礎知識を学習する。 |
| 13:00~<br>16:00 | 2-3<br>2-4 | アセスメント 演習                        | 活動と参加の促進に結びつくアセスメントを、実際の事例を用いて演習形式にて学習する。質問や興味関心のポイント、視点、姿勢等実践活用を前提として技術を身に付ける。  |

### 第1回、第2回受講後の宿題

- 受講者施設の実利用者に対し、活動と参加の促進を踏まえたアセスメントを行ってくる。
- アウトカムスケールを用いてアウトカム評価測定を行ってくる。  
※以上を受講者専用クラウドで共有し、スーパーバイザー及び参加者相互にリフレクション&フィードバックを行う。